諸德當用集

中

ワ 3
6905
2

端後當用集巻之中

猥言之同録

一門出入仕やうの事
一玄関あがりやうの事
一客来入やうの事
一月番なるやうの事
一何屋のしれ後家勤やうの事
一主君仕やうの事
一年の始めやうの事
一素礼法ならやうの事
一人より何ひ礼賀勤やうの事
一口状ひやうの事

八丁目
一日
一日
一日
一日
一日
一日
九丁目
一日
一日
十丁目

分類 丁目
番号 439(3)
通番
門ワ 3
6905
巻 2
49-2632

一 紙ひ挟ゆうしてぐれゆうの事　十丁目
一 扇子わくこゝ仕ゆうの事　ハ
一 物看くしん蒔ゆうの事　ハ
一 清五郎ゆうの事　ハ
一 宮森むうへゆうの事　十一丁目
一 遣りゆうの事　ハ
一 ずくこゝ遣よゆうの事　ハ
一 弁当家の蒔こゝゆうの事　ハ
一 業のゝひの事　ハ
一 多業船宝ゆうの事　十二丁目
一 ハゆうの事　ハ
一 手漉子ゆうく仕ゆうの事　ハ

一 扇ゆうの事　十三丁目
一 網ゆうの事　ハ
一 蒔業ゝゆうゆうの事　ハ
一 ゆうぐゝゆうく仕ゆうの事　ハ
一 幕打ゆうの事　ハ
一 網ゆうの事　ハ
一 言葉をひの事　ハ
一 綾物清五郎ゆうの事　ハ
一 ゆうゝゆうの事　ハ
一 鼻紙打ゆうの事　十四丁目
一 清五郎ゆうの事　ハ
一 小刀ゆうぐゝ清五郎ゆうの事　ハ

一 布巾弟出し申す事　十四丁目
一 小袖帷子の事　同
一 同 唐草蒔絵硯箱の事　十五丁目
一 同 人参色の事　同
一 茶色の事　同
一 書状箱五つ　同
一 文箱五つ　同
一 同 紙捻の事　十六丁目
一 掛物袋の事　同
一 同 鳥の事　同
一 家の絵賛物見の事　十七丁目
一 表装ぐりの事　同

一 柳の書物壺合の事　同
一 同 炉裏の事　同
一 火鉢出し申す事　同
一 同 屏風の事　十八丁目
一 紙袋五つ　同
一 紙箱紙袋出し申す事　同
一 表書の紙袋の事　同
一 書物袋五つ　十九丁目
一 同 見の事　同
一 袖の物袋五つ　同
一 同 袋の事　同
一 硯箱紙出し申す事　同

一 産家お見仕ゆうの事　二十丁目
一 ばゝ迎ゆうの事　同
一 婚礼或ハ座下ゆくゝゝよ往来礼義の事　同
一 途中ゆくゝ礼義の事　二十一丁目
一 手洗ゆうゝ事ゆうの事　同
一 神前佛前ゆひゆうの事　同
一 給餐口新ゆうの事　同
一 立花見ゆうの事　同
一 料紙ゆうぢゆうの事　同
一 短尺仕ゆうぐゆうの事　同
一 同本の枝ゆうぐよ付ゆうのゆ　二十二丁目
一 出家白礼義言葉法ゆうのゆ　同
一 人よゝのゆ敬ゆうの事　同
一 使ゆ一ゆうの事　二十三丁目
一 敬ゆ一ゆうの事　同
一 ゆ敬ゆ一ゆうの事　同
一 産家素麺ゆのゝ礼義仕ゆうの事　同
一 炮烙ゆ一ゆうの事　同
一 同ゆんゝゆうの事　二十四丁目
一 琵琶ゆ一ゆうの事　同
一 碁盤ゆ一ゆうの事　同
一 双六盤ゆ一ゆうの事　同
一 将棋盤ゆ一ゆうのゆ　同
一 ゆ敬ゆ碁ゆ碁ゆうの事　二十五丁目

一 魚類畳よ者ゆうの事　二十五丁目
一 貝ろい畳よ清ゆうの事　〃
一 紙類畳よ清ゆうの事　〃
一 綿多いよつゆうの事　二十六丁目
一 糸ろいつゆうの事　〃
一 板畳合い清ゆうの事　〃
一 織物ろい陶ゆうの事　〃
一 包ゆうの事　〃
一 絹布ろい包ゆうの事　〃
一 傳ろい清しゆうの事　〃
一 人形ふく物り紀ゆうの事　二十七丁目
　　賠紀名目

一 清しの猪　二十八丁目
一 七五三の猪　〃
一 五々三の猪　〃
一 ふ三二の猪　〃
一 ふ三の猪　〃
一 雑煮の猪　〃
一 吸ゆの実猪　〃
一 語ろいの猪　〃
一 てんちんの猪　〃
一 湯つゆの猪　〃
一 粥の猪　〃
一 出汁の猪　〃

一 清物の猪　二十八丁目
一 同　幽斎の猪　二十九丁目
一 清物の猪　猪紅頭方ゝ次第
一 三ぶう居ゆうの事　同
一 同　揚ゆうの事　三十丁目
一 雲の猪居ゆうの事　同
一 同　揚ゆうの事　同
一 紀猪清ゝゑゆうの事　同
一 平長清ゝゆうの事　同
一 猪よ方引物付ゆうの事　同
一 同引物のゝゑんはの事　三十一丁目

一 酒ゆふゝゑの事　同
一 湯ゆしゆうの事　同
一 菓子ゆしゆうの事　三十二丁目
一 雲の猪よ匂ひ雲ゑゆうの事　同
一 本二三の猪匂猪よ雲ゑゆうの事　同
一 同物くひゆうんはのゆ　三十三丁目
一 赤飯強合くひゆうの事　同
一 雑雲くひゆうの事　同
一 吸物をひゆうの事　三十四丁目
一 粽くひゆうのゆ　同
一 海ゝゝの喰ゆうの事　同
一 押鮒のゑんくひゆうの事　同

一 繊頭せしめうの事　三十五丁目
一 同ようもせうの事　同
一 先ん類くひうの事　三十六丁目
一 うんるくひうの事　同
一 わう飯の事　同
一 同くひうの事　同
一 祢酒いでさうの事　三十七丁目
一 当砂糖せんうの事　同
一 立せしめう盃の事　同
一 同夜のさ盃の事　同
一 当ようるるあるこれ礼盃の事　三十八丁目
一 酒看せうの事　同

一 看せしめうの事　同
一 同接せうの事　同
一 同いでさうの事　三十九丁目
一 本膳類くひうの事　同
一 作蒸菓押蒸くせうの事　同
　えこうく腊物
一 齒墨の語の事　四十丁目
一 雑書の事　同
一 年賀くくうの事　同
一 徒縁ぐうの事　同
一 立名白の手抑の次第　四十一丁目
一 八幡手賀の次第　四十二丁目

一 [illegible]抑の次第　　四十二丁目
一 御火燒の次第　　同
一 正月年始礼次第　　四十三丁目
一 祝言の次第　　同

以上百五拾條

諸式當用集巻之中

親方之次第

一 門出入仕候の事

人の門は角ひく家方の方より入れば先方の長屋より入り西より上下のんけあり[illegible]の門の脇なる方を門の下座敷あり

一 玄関あがり口の事

下座の方より[illegible]ひ[illegible]ま[illegible]ぬ[illegible]る人あり[illegible]ば案内申入る[illegible]上ゆて[illegible]仕[illegible]座敷へ行申[illegible]の事

一 座敷へ入口の事

[illegible]の下手より入[illegible]の角ひよわくさげり居あいさ

はしらあらくも手をもみてもゆくゆひ合うるこれ一ぱう
扇子めをはなれたるものの取りはしをぞーいめうぞうのもの

一 月毛よ第一の年

家の印ひ例いあの先家のみちかいをのの先

一 印先のこれ礼義津こ先四のこれ印の先ものとうぞこ人生

あ例よ人くあらび居うこれ印ふ印ゆくゆぞ次のうあく

まうこふこれなどいたぞふ印先印のこれ印ありよ

あいこうーこ生ふくく印のこれ印ありよ

津くぞうくせひこーー接こ印よ居ふとうあ例の人

よあ意よ接扱こふ扇いこよ先しめこてたのひぞの銀

月接よ第一ありよ

一 生居住ゆうの年

あるこふここうくこたとかーー引きこたを引こ印ようーこ

きうこうひぞとしーくこ先よ居ふなうたこれいたくこタハ

たのひぞとひここたとこせくひここ印うひぞこ使月

てふこせーこ生ありたくたここれもたをひここたをとうせた

うこ生ありうゆうのの八学使ふぞんのたつ印ゆ印ばれうぞふ

人をたうこようよ合せこ先ぞどもワあとゆぞふゆへ月

月ぞーこれ雑多ーたーらへ印よ月ものこ先ゆ

一 年の津こゆうの年

ゆびこをを門八の字のゆうよ津くんあう年むつうこひぐ

のこをぬゆうみーくゆびこくくのうをあぞふゆう月

むくくこあぞくー

一 書礼法式の事

それ書人つくれる同人いうとしるしの礼の法式あり先元服ののち一同を祭りて祝のうち初めてれ同色うへ、おうちと為てしるしを礼とあり祝なるべしそこに三日月を前よ法くだいの出ひさしてたの手と上れのもとやうに祝くさ〜出しれたるとあるの〜紙太の手のうちようけ大ゆびをくはきへ二ひさきうくあ手みくいてさきうまふとうとくあへくきうぞれ次の月れ扇ひさぐ〜のみ示よ法くだいひさぐ〜うさ〜て色くあり

一 人よ同ひ礼義はしめやうの事

ほふ同ひ合扇とめてあもと法を相意よあいさうして先て手をとうせめやう又先うを相手よぶてうあうのあて日祝出〜やうのう

一 家と手の書平色のうとあとし色あり衣いうく

月色やうよあうの前よ書べ〜

一 月挟やういでれやうの事

うとあうあうて家人よ者て

月の祝の三がうとあうて家人よ者て

月の挟と書うとかく箱先のあがふい上まの人挟む

とれあう揃よがしとあむハ弁と同位の人あうべ〜笑の

先のさがうあう家うう同下の人よ挟むとれいでさ

あうハ太の手を上方の手をとびりそうくを者門

みを指大指まて拭さくあるをみるくいてさそふとを添へく

一扇ぬさ〻〻仕ようの事

ちゝうぬくとをたをたのをふくあの大ゆをと上ちう

拭たのをとい巻のり事、ちゝうくとをたくぬさうふ先の方

のうゝうゝて人の前ゆをふゆうをえ拭たのりをまを

ありさとをたもはゝゝんはあり

一物あくゝ人前ゆうのうを

いつかくも皆ひうゞそのをふ物を無じてあるもひ

らさ拭ちくとをさゝくうふのをくゆとべゝ人の

前ゆんをあるぬゆう一ふ事有あるうまとべゝ

一はをたゆうの事

人の前へ地紙をものさうぬゆうあるを祢の所とめちをて

法とあり家前へ扶みゝくたのをふのをたあくゆ地紙

の方をちふをの方とはして法をあり信をたゝく

みをべゝ

一客来はやうの事

前人ようり門前或へ式者をゆ迎をたうを案内しく

先客系入口のをたねをあををもちうくたく

てあをくはのをゆををくを合しくさく家へ家の内門へ

ひをくうゝうあるを事をへ家例のをあり家人を

ひ合ををあり

一はを送りやうの事

事をへ家人をう一間往をたくをく玄関へ家人を押たく

をゆをくゝはをひゝ所をくゆひ合せをくをゆしてま

所ゝ人ゝ出門引あり

一家と亭主と客ふ者ゆうの半

客者家みを人ふをうべし家人上ゆまあゝは亭主は一ゝ

もち居ゝ行の人ふゝ向ひ合居あり家をそんはふ

てあべし

一客者家の前をゝゆうの半

床の前一間ふゝ清くびいそきうゝまち出ひきしゝく

床先お掃ゝ物みくも花みくもはんゝ床の前

よ掃よ掃ゝ亭主と床をいてあり床をいはく亞りのん

一菜のゝひの半

蓼よのせあはみゝく拵出家人よ麩のあ拵よおしゝて狼

所清くびいてあはみゝく出ゝと信れ菜拵ゝ菜蓼

とひごのゝふ亞ゝふ亞ゝ人ゝ亞ゝ出ゝ亞ゝの蓼みゝく何人をゝふ

ゝ狼ゝ亞毎よ蓼とい拵ゝ引あり

一多ゝ亞ゝ多ゝ多ゝ出ゝ亞ゝゆうの半

平ゝ亞ゝ多ゝ亞ゝ下の亞とあはみゝくもち出ゝ亞も菜のゝよ

ひのゝゝゝ

一戸漆子ぬりくはやうの事
戸漆子ぬりくはの方より塗ぐべし　ぬりかたの方より塗ぐべし
此のぬりかたの方より塗ぐべし　たのまひの足無
やうにぬりかたのかたの方と塗ぬりかたの事とは
さたの方とあくるよりたの事とはさくにはまくもつの
ぬりかたなりとも戸漆子ぬりかたのいてあ
らべあ方にぬりかたひきくべし

一屏風色やうの事
墨絵は上たの歌色絵は下たの色べし　六枚の屏風は三帖
とひらくに上たの方に引次に下たの方に引伝雙ぬりかたを
右ぬりかたの方に引伝雙ぬりかたを
一同紙やうの事

一襖障子やうの事
中と色ぬりかたの方に下たの方にぬりかたの
ぬりかたと色ぬりかたの方の人名はぬりかた
一同ぬりかたの人名はぬりかたの事
みとおくも当のぬりかたはたれもたれぬりかたは行ぬりかた
あまふて問はまたあぬりかたふぬりかたは行ぬりかたて切ぬ
ぬりかたぬりかたも同ぬりかた
一幕打やうの事
平ぬりかたは行方と少くぬりかたはぬりかたのぬりかた
とあるぬりかたやうは法分引ぬりかたは切ぬりかたの幕事
ぬりかたを略ぬりかたは行ぬりかた

一 用紙やうの事

多津ふとそぐ〜ろ紙程よ墨〜に折多はふもろ紙程よたぐろ〜十文字ふうあろ〜あろ〜ある様ひ重〜

一 用言葉はうひの事

巻ハ折ものむ〜ハ〜ら〜とそう巻い場ハ〜ろ〜ハ〜ろ〜ろ〜ハ〜ハ〜ハ

一小刀うづん結ぶ法〜やうの事
人の小刀いとく双と家系〜て濃扇子のごと〜家小刀
とん人の所をよろしくそこれい濃うとゐ〜〜く先と家系、
ゐ〜ゐせく濃とて〜ゐ結のそを家のご〜結ぶやう家の
〜ゐりうづんをゐ
一帽子巾着巾着出〜やうの事
扨ご結とうく一所ようせたの手ゐく拵付とゐったのま
の間、帽子巾着巾着との〜〜濃ようゐ結ぶやうゐ〜て拵付
とれたの手のうちのせく結ぶゐり
一小袖要やうの事
袖要ゐ〜て二つよ折上〜と上て〜ゐ〜ゐ〜れい湯の要やう
ゐりゐごと上〜ゐせば法のたく〜やうゐり

一ゐひろぶて〜蓋ゐごふ法〜ゐやうの事
ひろぶ〜みく〜も蓋みく〜も下〜と上て〜ゐ〜ゐ〜れいゐり
〜〜人のたてゐと上〜と上て〜ゐ〜ゐ〜れい人のたゐりと
とゐとんきんのこれい袖と折〜〜と
一ゐ人ゐ〜せゐふ事
ゐりとうれ行よ折〜袖の縫目のゐりたゐ〜とふゐり
みとちそ〜裏のゐてぬやうゐりとそと問、折〜袖付の
縫目の所よ折〜〜せ〜〜れい人の法ゐりゐ〜ごいとそ
とゐよゐとゐりと拵ゐごりたく〜たの袖りゐ〜ゐるやう
ゐりんゐ〜〜女中いたりうゐ〜ゐせりん
一帯ゐ事せやうの事
帯とこりよ折〜そ〜とゐ〜〜こりよ折〜たの手みく〜ゐりと

ゐふくとへとも右ふくさ三ツの重と称するの方
ゐうゆとゑ人のそくとゐ名ゑゑ引はきざるゆうゑ右の名可
てゐをぐゐとふなり

一　書状結五法〳〵ゆうの半
右のゑとゑ右と家前〳〵くあゑゑをむゑゑ
法ゑゑゐ結ゐゆうい右のゑふくゑ状の家前右の角ゑゐ
右ふくゑ中程ゑ五裏とあゑゑゐくゑ右ふくゑ懐中〳〵
て左ゑゑ上ゐ中いゑよ拾ゑと状ゑ下の方へそて出
ゑ結ゐゐゐ右ふくゑ五ゑ下の方へちゐゑそゐ下いゑ
くゑ〳〵ゆゑと裏ゐ右ふゑゐくゐゐん

一　文箱結五法〳〵ゆうの半
小ふくゑ箱い書状の色ゐ中ふくゐゐゆゑとふゑゑ文箱い

拾ゑゑゐ出ゑの結ゑ拾ゐ口上ゑてあゑふくゑ箱へ出〳〵
ゐふくゑ懸ふ〳〵て法ゑゑ侯あゑふくゑ換むゆうふ〳〵く
引ゐゑ上下とゐゐく家ゑのゑゑふゑ亟一礼〳〵て拾て出

一　同紙結びゆうゐゐゆうのゑ
表ゐふゑ結ゐふゐゐくゐゐいふゑゑゆ〳〵てゑの家前く
ゆゆうふゑふ或い文画ふくゆ文箱ふくゆは〳〵但ふゑゑ
あゑの家ふく中の月拾ゐゆうゐゑゑゐ右ゐん

一　鳥折結ゐゆうのゑ
鳥時ふくゐゐゐゐゆうあゐゐゑゑ大ゑゑ人の知ゑふゑ色ゐり
ゆくゐゐゐゐゐゑゆゆうゑゑゆ人ゑゑ亟べ〳〵二幅対のゐゐい
中ゑゑの結びゆうふくゐ別ふゆうゑん拾べ〳〵

一　同鳥ゆうのゑ

鳥物とたの字鳥等とたの字ふかい家鳥家よりはく
ぐつく牲の家たよりあるゆうはたのまゆとたたくぐくの而
とたよりは重よひさ弦とたとたくぐ接よひろ前上の
一文字又弦ふかはくくあるとし牲と家家くくぐくと
先くあるゆうふあるとし等と弦く鳥とつく立家の前く
おぐとうう家ふちの而ひあくたあぐう鳥うん家ふうえ
くえい上くあぐうく鳥ふたあぐうくえい家ふちく毛羅ふ
ひくくをうはだちかくくをかうけくあぐうん畧仮よいを
仮おぐをあぐう家のうくおくたて鳥うあり
三偏對鳥くえい中たたくぐとくえいたた
たれとはよ鳥くふうう先くくぐとありくぐゆう鳥
あうくえのんはおく等おぐう弦たうくて弦ぢ

むさ清くぐいよ重等くつ牲うう考のごく
弦くえ重ひ弦びくくとくえうう時の色よとうん
一　家の絃價物えゆうのひ
家三又前よ清くぐ先弦とたくくさんとたくく次り弦
の下價の下上下の一文字中あり弦上下の地花ぢ
くのたたくえふくこ偏のくえい中たんくうん
一　弦ゆうぐうやうのひ
先家のあぐうゆう美一あり色くみぐ仏畧弦ふかても
いうゆうくくを情好くく又合うぐ鳥物の前卓に香炉
重ひ略前の宮式ありくくあ弦花重くの或い祝名料
紙りよ重○重くくとあり
一　柳よ書物重合ゆうのひ
妻くくに偽みぐ

書物の香箱の香炉香箱のせてく物上るようにする
次の物の書物盃合これハ寄合の類物後のゐハ時代よ
こゝ物をとうんぐつあてく物ハ上の陸よ盃やうよんゐを
べーあてくハた今集伊勢物うゐ源氏物ごゐうゐう
ふんゐぐー

一 囲炉裏のゆ

ゆうーハきゐふをきゐゆをしてをゐ紙の記ハた
こゐ物ハ八月ゐ二月中ゆ八月ゐ二月ゐ九月中をハ
の炉八十月ゐ三月中ゆ八月ゐ二月ゐ九月中をハ
風呂ようゆかゐく

一 火鉢出ーやうのゆ

大きゐあゐハあ人ーくゐれ出ゐ人の赤色のうゐ弱ゆ
ゆれ一人ハ色ゐ一人ハ弱ゐくくゐ赤ゐゐーゐ盃
てゐゐゐふゐハ一人ゐくお人のうゐ弱ゆ物ゐーゐ赤
ゆーゐとーゐ盃ゐく

一 月ゐ清ゐやうの手
ゐゐ五ゐ出火鉢の弱ゆ盃火鉢とうゐ弱く引うせてゆ
火ゐあくゐ色ゐあくゐくゐゐやどゐ赤ゐ大のゐ指ゐて物
火鉢の中ふゆゐあーゐハゐゐ赤ゐふくゐれゐ次て
小火ゐゆ中ゐゐせゆーお一ゐ赤ゐ色ゐくゐ
色くゐゐ

一 花活ゐ後ーやうの手
木の花ハ活ゐゐゐの赤ゐ枝ゐふくく後ゐゐ赤ハ花の

方とりくしく流しロをのくに花ちさの方紙みくつむ
折形みくの門をくるる結ぶゆうも同前
一 花結花付出しゆうの事
結ぶとちらおりよ地れあ〜あらに二つの方と人の前
ものと付もこころの品をしの前くあとてつの品をよ人を向
せめるものく
一 元服の日花出ゆうの事
たよ花生たる花を持あくに家の前三足を前よりて
ゆうく花をとりよ地く花生と折ぐごうゆうこれ月た
の方よくぐあらぶを使ゆくみ〜とりたの事と花
生のロ乃ちちくとくく島ちあらきくたの方の拍月
くくあらぶたの事これ方のとしたのとりくとくく長

三足ちちりよ地れこる花とみあ前ちくゆうよいく〜
さくくありあハ法ちりのし出さ〜ゆ〜よ〜〜
にのロあくあうくとりのく
書物結ぶ法〜ゆうの事
一 御願字ちくと家前たくあ〜たの事ふのせたの事事
の前出ぶ地くく法とあり結ぶゆうもたふくなの前と
くちたの事ふのせくくれく
一 月見ゆうの事
ロの所二三枝中程二枝地くの方二枝程見ろく
一 脇の物結ぶ法〜ゆうの事
たの事ふのせたくく法とあり結ぶゆうも同〜ん
ひありゆうの品前ものくくとりたゆうよたる拍ろくものと

たくさんに流れるものをすくいあげるべし

一 可絃のこと

巻く絃は半分ほどの家前の方へ寄せて巻く絃は半分ほどの家前の方へ寄せて巻く

くさくさにして右例の曲げいき半ばあるべく巻く時写は使もべし

一 双翁料理おしやうの事

料紙折用と家方なり 双い海の方と白くしく拔出すもの

あるものあく紙とんの前色たの方へ寄せ墨上の双弟式

家前あるものを引せあと入墨との字のごとく色

どうあるべく筆のさやとめて箱のふちへ寄せあるべ

し海と家前あるものあれるべく双弟の白よりなり

とも横半あるべくとしく色とん例へば先

ふくさを引せ次に前と引せ次に前のうちあくちふく

さいとあるとしくやとさせやはり抑紙墨と海抑やつく

次に紙と引せて上て筆とのせてしてあり

一 案内のこと

案内とあるは一向往却なく浅ほうあるん例より

こあり見合せ居るに紙案内なくあるべ内のるく入

家の前よりまるる往来ほうあるべ入て箱

とも書かれ擬のやうと張るべ

所く案内有り但せ抜見しくあるべ筆のあるをりく

うべひやべしあるして居るべ所あるべ

上隠のるいあべめべうくそとも案内るるくく

あるいはの方ほうあるべうくちくに

あるいはさとりふかき年のうちうまれつきやうにんぶ
て湖玄流或は宗柳示のやうにとびねんとべし一尊子
の示うち出へとべうしどとそのうちにはいるきの人のはをひ拾へ
一法度日あうの年
潜うち云ちくいちうく潜ゝびい先輩山の神とちうく見
く潜ゝびあをびかくくく

ゐんのりきやうゐあくてい手くび折くきつるあくごと
らくくんぢゐ

一 神前佛前白ひやうのゐる
弓の右家右の方うへ前の右の方を引神前白ひ
ぬしくたの方こうゐゐりゐ堂塔佛前白ゐをにしゐん
ゐりゐ女へたうへたくゐゐあん

一 鈴鐘は打やうのゐ
鈴へゐゐくこうゐ五ゐうゐ鐘は打くうとにし
ちうえん

一 造花ゐやうの事
美小袁ゐあ〜御前ゐぐ〜紅前ゐくゐ漆花瓶のうち左
右花瓶く漆ゐより前ゐうとくゐのく生花もゐやうゐんは

みく招ぎ花をとうくりゐゐあん但造花二瓶のうち花中右左
うゐたゐうのくゐもゐひなうゐ

一 料紙ちぢやうのゐ
ゐい正月祝儀或ハ祝言の話ゐてこの色和紙みくもにし
んはゐくくゐうくの方みくあうゐゐ結びやく言ゐハ裏
ゐりく結び西ゐよハゐうくくみて結びうくいふさう
あをどをいうゐくも表みく結び留るてくうゐ〜
ゐうなう

一 短冊ぢゐぐやうの事
題と書くゐ上の方とあうゐ方のうくにゐ〜す注ゐ宛と
あゐ仁投も注ゐぐくくゐ〜みくもうゐ〜
のうゐみくあうゐ小結びゐくゐう

一 日本の校ぐ不行ゆうのるゆ
寿ふくも教ふくも出る経天のうと一分行うう出
方へ指さ行さ主平ふ穴とあ者あうといと和一弦
ひ結ひさく本の一ゆ校分風ぐ吸とれうぐくゆう
ゆるくと結びうとあるふ結ひゆくるの

一 五月の孔雀言ふひのゆ
正月の年始の孔三月の上巳五月はあや菖の節ふ七月
七日の七夕十五の中元八月彼岸の節九月九日重
湯とを重九というふくゆうのゆ入てゆうれ云
ふうう毎年とつぐ列礼ふへ

一 人をのドふうゆうのゆ
数人をの主命ぐわ角ひくりさうさうつむ

さ口上ふくも形るとれよせとしく養ドさぐ仮ふり
ふくく言くふ祥とを色ドふ統の西ふく少くくあくく出
言ふドとのんふくぐうくを仮あうべ次のふくさぐう
ふ次のんとをつくふ仕とを七しとへうゆうふくいく
祥んのふる使ひドゆとあう時宮ふうべしと人の仕へ
いうふくもゆうふくふる形るものん月当ふうべさしふひ

一 ま月年とつく相毒ふる結美ふべ
能出しゆうのゆ
寿口とんのたくふる毎うふふし接ふ方ふくとちたと
ひの方くとくく流しゆくく指のさうぬゆうふん仕屋し
たくん袋ふ入くとを古のんとふり
能出しゆうのゆ

裏表のうらと前後ゝのふたをとたたるゆうは
扨あをく撰よ出をとゝあり後たゆうにちごとたり
くれたとくくうよくくれんくれんくれんくれんくれん

一　右親出ゝゆうのゆ
和久よ入く出よ打ゆうみく人の前あとゝどちい
ゆうう流を出よ出ん
一　左賓書出書徳ホのくれ礼義仕ゆうのゆ
先くうゆふ人ゆよくふ人て一礼ゝくあとたゆくくあ
先の平を扨たゆく東の平をちうくゆらくくひくあ
くくくくあるハひさのゆて撰みくたよゆくきくひ
くくふくれ前のくく扨くん人ハ神ゆみゝて至言
あるべゝ扨あるべけうべう立者を弱よたべゝ

一　婚養出ゝゆうのゆ
きんくうときうくせんくふたくうゆくくる平家前くゝく
くくあんとたゆく扨たの平とたくくくおくうれ平よ
くゆうゝゆゝ由うくゝ平ゆの方人の前あるゆう
よあとゝゆくあう
一　同きんくうゆの平
ちうくく立あううきんとゆゝ切ん平式ハ一家ゝ揚よ
くうよきうくよかのくうくくゆくくゆ立くく揚平ハ扨
ゆくくあう
一　聘聘平ゆゝゆうのゆ
行先も」方と人の前あるゆうみく扨おを使ゆよ至
うくあとゝて立くあう立あるゆハ人ゝてくうく

おく〻人の家にあるとゝ一人はそなへをもつて一人は酒うくるゆゑ
ゆゑあるとゝ古くより女中はたゝうるゝ出べゝ

一碁盤出ゝやうのゆ
本口とたゝうるゝ出人の家おゝゝゝ組よゆゑあつよゆゑ
あるとゝ重ごげはゆゑひろぶたゝふゝゝとこゝ
一所のせ拡ゆゝゝゝ侍おゝゝ
暑気ありはいうゆゝゝとあやまちのあるゆゝふあつひ
おゝゝゝ貴人は白玉人はまゝあり

一雙六ごんおゝゆうのゆ
ゝ搭よ拡ゆゝゝゆゝおゝゝあるとゝ拡ゆゝゝ石背の人ゝる袋を
ゝゝおゝとゝゝゝゝゝの上よゆゝゝ

一將棋のごんおゝゆうのゆ

おゝゝ碁盤のごゝ
ゝ類碁ゝゝゝゆうの半
くびと羽ごひ間よゆゝ拡ゆゝゝ一羽ゝゝゝは搭り武羽
三羽のゝゝは壁よ呂の方家前あゝべゝ但基夏は女ゝ
と上ゝ秋ゝは男ゝと上ゝよゆゝゆ右実あゝ暑気

一奥類碁ゝゝゝゆうのゆ
海魚は脇と貴殿ゝ魚は背と貴殿を色ゝゝの
ゝはゝゝゝゝ家ゝゝゝの白ゆうゝゝゝゝあゝべゝ
ゝは搭よ教ゝゝゝは海ゝよ
奥ゝ碁ゝつゝゆうの半
目の方とゝの家あゝゆうよゝはゝべゝあゝびあゝきあ

つゝ方と人の前にあるとき

一紙ろんの事

折目なる紙は折目をたてゝ右へつむ時は紙の類は紙のうらゝあるべし無紙の方と人の前に紙のうらゝあるなきばあるけのうらゝ方と人の前に家有あるもうよる米あるべいは紙よりはゝ中ごろ善よりうらゝ二米ニうらゝ方ハはゝ中とあるべし

一出分あるべし

一帖紙よつゝもうの事

結ひあるは結ハ結先の方人の方へあるとき結ハうらゝ方へ結ひ一色ニ色ニ色ハ結ハ紙よりはゝ上よる出分あるべし但結目ざる言葉きゝ結ハ方ようはゝしうら

一紙ハ結又あるべし

ひとあつうう方の名あるきばあるとひゞ結とうふうゝ結ハ物あるとき或ハあるゝ結ハうらゝ出分

一あるべし

何きの事あるも端の方出中と紙あるはゝ

あるとき結ひ一色二色ゝ結ハ善よ結よ中ゝ二色ゝ

うゝ人ハ陰よ所ろうきとみ色の事とあるはゝ紙ハ色

ゝ方ようあるとき物よあるとあるはゝ上よ出分あるべし

一結ハ合ハ結もうの事

封ゝとうの前あるゝ一前ゝきものと上よ出よ重名法あて

も結ハうらゝ中ゝあるべし重べし但一前ゝうらゝ一分

結ハうらゝおゝばゝ人ゝうのいろあるべ一對あるべし

一織物ろん巻やうの事
扨り多る紋の上、多るやうふ巻又結り巻とあく折うへ〳〵て巻
るのく麻上下のろんを用〳〵ん切あり
一用法〳〵やうの事
あ〳〵なとを出し〳〵中と紙ふく包あ引ふく結ひ上よ出付
ふべ〳〵まく紗綾縮緬ふべ〳〵ふ巻方よ折く巻方うらうへ
折ふ〳〵出さ六七すべうふ〳〵巻うるとあるを見いるを一ろ
くのよ紙の上りと折く法〳〵あ引ふくゆふあり
一端布ろん包やうの事
一也一反ふべ〳〵折結る径ふく紙ふく包あ引う事上り
出付ふべ〳〵
一用法五法〳〵やうの事

巻ふを廣ぶく〳〵ふとの也〳〵法五法〳〵ふべ〳〵折かた巻
紙よ地さ口上りく法五人のひぐ先て接よ引ま〳〵ちく
あるとあとむあて地〳〵出〳〵法〳〵法れ人あよふくひく
ふ也先の紙ふ地を接〳〵折〳〵ふあり
一人前ふく物書やうの事
致ふる人の前ふくもりよ折〳〵あひぐ巻〳〵結径ふく
出〳〵又巻の人の法ぐ紙ふ中ふ折〳〵ふれ〳〵法出ふ
ふ〳〵ふふふ〳〵ふ〳〵ば一前致啓上ひ〳〵出ア時ひ〳〵〳〵ん
ふやうのん切ふるふの法出よふべ〳〵
右日用ふ右 請五法〳〵次第一関ん不可ふ
〳〵者也

膳部名目

一 引汁の猪 但くるまうはゝ和よの〳〵ゆよりちんぶ

一 七五三の猪 但本猪よ笠七ツ三ツよりこゝろ付くそと
歯附ハ三汁十品菜ゝ〳〵ゆ〳〵ぼのハ和へ〳〵汁をあべ〳〵
やくゝゝのを句猪へ

一 五〳〵三の猪
右汁ハ和あべ〳〵そ三汁十三菜ゝ〳〵

一 五三二の猪
右汁ハ吉ゆと三汁十一菜ゝ〳〵

一 五三の猪
右汁ハ吉ゆと二汁八菜ゝ〳〵献立の次第ハ附写よろ
ゞ〳〵

一 雑煮の猪 和よ保ゆよ ぎゐ先 梅ゞ〳〵
当ハ句ゝ行あゝゝを付べ〳〵

一 吸物の猪
当ハ吸物椀づゝあゝふゝとそれたの猪ゆハよ吉汁と
吸ゆと二ゝ〳〵猪ゆと汁吸ゝ重へ

一 麩類の猪 ふゝ和へ うどん
句ゝハゝゝふゝやゝ重合猪ゆよ汁と吉ゆ包と付へ

一 てんぷらの猪
漬ゆゆゞのゝ和へ和ゝ和よ出とゆのへ湯ゞ和玉ハゝ
ゆゞのゝゆをあべ〳〵

一 湯漬の猪
湯ゞゝゝゝゝゞゝゞ当の飯ゆゝも汁菜香の物ゝ三ツ

猪あつべし

一 粥の猪

あさとこゝろみ煎し塩の四よ塩香のこの盛合

出さべし

一 出豆の猪

豆猪あつべく茶ふ人ゝ用香ゝ後の猪和色こゝあべ

一 後猪の猪

白折紙ゆく先ゝ吸ものと出し次よ吸ものの酒ゝ後引ゝ

中猪ゆゝ

一 酒事の猪

あさきゝ中ゝゝ猪ゝゝ出義よ飯も汁も菜もゝゝ

あゝゝゝ中ゝ元ゝゝゝ中ゝ元ゝ出中ゝ

うづむべし 僧よ抜飯ゝゝゝ

一 法事の猪

あさきゝ茶ふ茶ふ新時の猪ゝ献ゝゝゝあべし

膳部猪方ゝ次第

一 三ぶゝ茶ゝの中

下のゝゝ目白折紙のゝゝ目茶ゝ茶ゝ猪

のゝゝゝゝゝ茶ゝ中ゝ抜ゝゝゝゝゝゝ

押ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

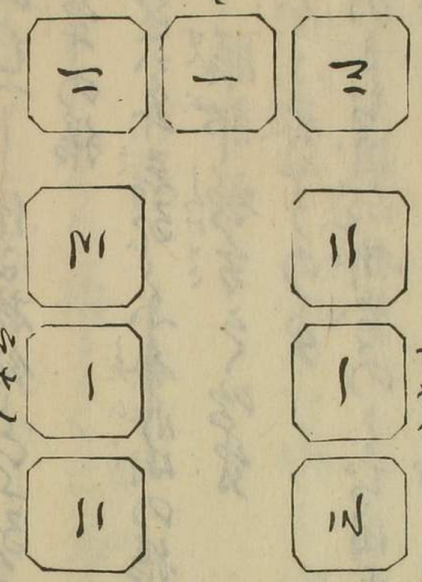
目八分ゝ上ゝゝ茶ゝ人の茶ゝ猪ゝ

下ゝ中ゝ中ゝゝとして三ゝ猪ゝ

右の方よゝこの猪ゝ右の方ゝ行ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二八中「立者の据も同じくんば左右のくれハ二の据上
左に据ゑて下より立てとぐ立二の据ハ下左の方より
居くと上座と為くしくに立右の左のくれハ二の据下左
の方ゑう為遠よりくづいやよりさくるゑとこの据
ハ据ゑて居くんあくべ方のごゝ


三
一
二
二
一
二
一
二
くだ
ゐた
ゐた
ゐた

らうべし

一 平長はしらえんやうのもの
ちまき揚まうろ猪とをぐるまわしく出とてこまり除く
くるまのくんよ茶う猪仕の人演とこれよれるとさぬ
やうにもぐよ茶やこれやうよ演とべしまあぐて除く
こうこぐるこれ揚よ揚出う人茶こうとあぐこるをう
みしく叢平出とこのくん茶このるん百揚山をにんん
はあうべし

一 猪よ茶引物仕やうの半
本猪二三の猪仕人猪をのこうぐ茶演してこ使飯
狩出とこのく扱猪仕人飯狩のこうこれやよ垂地こう
の茶こう叢と上茶の茶くもらこくく揚とこるこれ太

みしく飯揚の茶叢とこちらの茶とこのよこび出平
こくヤはくふ方の平よ揚みしく揚みとれ飯式二
方よこうこ猪よ垂茶こうこるくこ茶こ汁とこるる時は叢
みしくも垂みしくも揚茶こう本猪の猪へこ出しく汁のこんを
茶みこせこう猪よみこうこと出しく茶平みしく揚垂猪よ八
汁と垂こしく茶のごしく揚茶こうこのこみしくここれやよ垂
茶平みしここ出とべしここ茶亦垂こうこれいくこび
みしくもこくのごここよ茶垂茶揚よこうこみして間ここぐる
やこうみとべしこ引りのいここしく茶こくこうこうこ出ここ引次よ茶
こ引或はこう茶こ二垂三垂こ茶こ垂こ茶こ引ここれこうここ引こ
合三垂ここのふのせここ猪よ垂こ猪よこうこ一垂ここうこ
物よここしく出こ付ここ垂こよしこて猪の方仙よ引垂こ

一 引物のこと

ちきやの人のんはるの家ゝ上座の人より引とる時は椀も箸もりよりはさ物をく家家へ引よりあるとる時ゝ引きいんぐんりちくくうくくみくもさ〜出とやうみるべ〜きと亟ひの人引いれ意よ忘ゝ〜みるべ〜きと家ゝの下座の人ゝ引るいん合わく多ゝ〜ぐと二人同ゝ引ゝるよ椀箸をあり

一 酒出ゝかゝるの事

家人飯汁一ゑん亟ゝるゝるよ砂人揚あくも同ん物ゝくも物出く事座よひうへ右をゝるる家名椀亟りよ亟ゝを出く接拭〜仕をゝるゝるを亟ゝあぐゝあくちきをゝ中酒出〜ゝん但一亟亟〜て砂人揚よ、

引ゝ後ゝ〜く飯と物案の物ゝを再きいてゝん

一 湯出〜やうの事

家よ湯次ぎ〜ゝ〜ゝて〜く物出く上客ゝう陪くよゝゝう

一 菓子出〜やうの事

ゝゝるゝるゝるゝおよゝ三品ゝ種ゝづゝあく津ゝゝく出ゝるゝ出ゝあゝく猪の上ゝゝくゝゝゝ方物ゝくよゝ言ふ組合ゝく出ゝゝ亟揚物ゝ〜家ゝゝゝゝゝ侯地ゝゝをやゝづゝふゝゝを孫ゝを

ゝゝふ亟〜ゝを亟ゝ〜ゝゝ仕ゝふゝ

ゝゝぐゝゝふゝぐゝゝゝ紙ゝゝ紙ゝゝ

ゝゝゝゝく紙ゝよ地〜ゝあゝく亟ゝ用ふゝ

一 出の脂よ切ひ箸ゝ亟ゝ出ゝの事

猪よ白ひ菜と大の辛みもち飯椀のうへとそれ大の猪よ
切れ叔菜と大くさとちうつく大の辛みもく汁椀のうへとそ
れ白ひ菜と大の猪の大の猪よりあべ切べ
先飯くひ切よ汁と二吸れ〻後飯とそべ切猪の白大乃方
の菜とあべ飯あり〻を汁あり〻を汁あり〻れ菜とそべ
白つ猪の切よりあべあるものやそ物ハ白猪ハ和わと白つ
〻くあく引のあべしうんやうのんはハ菜りう菜とそべ
ト三どゝあうふ切あべ〻ハ切ち菜あべ〻ハ〻ハ〻菜りう
菜とあべあるあとくハ〻菜とれハつきの物とそべ
ト三ん〻ハ〻ハ〻ハ〻と菜あ菜りう〻〻きく〻れ〻あり
きく大菜よそべあるとあ〻菜〻〻〻〻〻猪〻〻あり

一　本二三の膳白猪よ菜あるやうの事

本猪の白飯とおく二菜あ〻と汁と吸菜と一菜〻べく飯
そ生〻あるふきとのうんと皿の白菜方〻の方大の方ハ
あべ〻〻り一菜〻べきと飯〻べ二の汁白菜菜飯きく〻この汁
白の菜うあうのんはあ〻〻やそ物ハ汁後よあべ中力のんそ
ハの白ふよあ物をうあうの色あべ〻菜よあ〻〻あべく
ハ〻菜あきく〻〻或ハ菜あ菜りうのあれやうよとべ〻

一　月物くひやうんはの事

白ふくを上方とり合そそ生よきあんしく〻あれ猪よ
あべやとれ小菜あ〻〻くあ〻〻〻ハたとべ一菜よあ〻る猪
と二菜よそて〻あ〻〻ハ〻あべ〻

湯とあべあるとれよ塩あ〻〻あとと〻ハとべ〻て書の物を椀
の中ハ湯とあんべ〻たべぬものんうあうのの生〻〻ん

はるかく出すとべ時くらまとさきとんりあるべし

一　赤飯強飯くらひやうの事

赤飯の仕り小軍のその塩ゑど付出すこと也ある人者人女中ゑいさやうの品たべどして先赤飯と一番ちさきたの手の内へのせ番とちよ盃あ手ふくいてれたべものく二番程たやうふくく沢いそ俵ふくく抜く番強飯もは番へけれは吸ものふくもの抜く出べし法

一　雑煮くひやうの事

雑煮ハ神ゑちは生すはかたうの雪さハ六七歩ゑど有て椀よ二つ三つづうをへ出すべし先番ふく上盃を椀のうち抜くらせ小番よ二番程角べ取付を切上盃一品

二品程角べりくよ出さふふしれハ上盃とり合せ付置よ
ちうもとべし先いうへめうちうしうるべくハ本抜ハけ引
くよ出べし

上盃献仕のとれハ　大抜　うを　牛房　こふ　軍こ
ふ品程ふくちうし

正月三ケ日の雑煮ハ抜ふのふふくち分九候ちうべし

一　上盃も家くの式れのごとし

吸物ちハゆうの事

そきちこ方そうふのふべゆうと用ふるへしうんの
ちくハ抜の抜方手よあとむ々く抜くべし抜のふちよ
くふ番ふ盃ふみべうちうどふくさ切ものとハ煮番
ふちと角くハ抜仕ふく仕手ちとも本式よハとゆくれ

傳馬とく仕ゆう作らん

一　粽くひゆうのゆ

ゑさきのまさきあるかうとれくさ堂の形よいづくと
ゆをさうの中ゆ津くさうる一ゑ丸をよ出しくふとれこ方よ
くくふるうさの形さやうるで付出ふとをそ色いそのの
作よ切さをと結べうどゆ但内くみくゑべかとれいの
やうくをとれようるべし

一　九を物くひゆうのゆ

九作ゆくもをゆ仕ゆくもゆうのものハ小ゆよ二ゆ
くふとものく一ゆよくひ切るとれい◐ゆうり歯秋ゆ
ゆゑよ月くよゆるとく嬉ふるん

一　押候の類くひゆうのゆ

四角ゆうものゆくもう作をゆ物ハ九を物と同じん作ん
干菓子の類ハ切りくくべし

一　絵頭出しゆうのゆ

三ゆうよ紙としくをを上ようづうく津くを名付おと
色しゆ或ハうつくのるハ出くふひろぶく切ぶをおハめう
ゆうものゆよ紙と色よ切ゆうどを津くをのくゆでハ付く
出るものくゆんだうようるどをうゆる一ゆよ貴ゆをつ
くを年ハ出とものハのくゆ名付ゆ切ゆ作ゆうたで
の時ゆハ津くをあぶゆく作るべし

一　月くよゆうをゆの年

ゆんだうハ紙よ作くを紙でふとうようるくを紙をを
くを作をものくゆをハ小くゆ色べか時

のりをきざみ大ふくもちを丸ふくくくとして紙にて包
こをよせ〳〵ちらく半分づくちりこ〳〵ぬきとりて
辛ふくよせ〳〵つくくちりこ〳〵

一　ゆんるくひやうのり

こゆんいそうゆんちうこまんちうゆう
いちくむくあつきと椀よへ汁いちやうゆのあぢ付て
く内にいてちりこうの品をとせんじゃ赤きとうゆ
いこのよい皿よりたる椀と色紙ゆんざくにて切筋をこみ
て付ふゆんぢうハ
くちり〳〵ふを用ちん

脇ぐくゆくのぢくあり

ゆへゆうハゆんぢうのへちふ椀のちとをれ汁のこをれ
鍋ふとび椀のうち色ふくこのちよりちりゆ分とハちとゆ

しをふくきぐよくふ汁菜ハをけるどそれとを時宜
ふちこ〳〵ふちゆんうどんハ茶時ふくのんけるこくふそ
ちちこちこ〳〵

一　ゆんるくひやうのり

羊うんゆちちゆううんちきこうんとちふ行きふても
切くゆちこ三椀へ三ち椀へ汁菜をゆんぢうのぢくふ
付ちちく付ゆちちんくひやう椀のうちふくちれ椀よちく
ふくく切ゆへ〳〵汁菜ゆぢハちちゆ椀ちこ

一　ちう飯のり

飯ハくちゆ〳〵ふくく久付成ハ行〳〵ふなちちふくちこ色ちる
ちく汁ハうちちゆうゆちちゆ〳〵菜のうやくハ花ちうを
針ちゆふこ　海苔　ハちこび　糸とちゆん　くゆうのちハと

四よ型合くゆ分ものまくまゆうぎん仕きあくも
えくくゆうは和こかあ〜絵やこことのゆのホこく
あるべし

一
はくひゆうの事
くひゆうい先飯椀の飯をわ〜茶わくこうせこく
ゆひの四よあこうやくとわくつ合へく扱けとうあこへ
ゆうけの中へうやくとへあいあ〜く作る麦飯あくもは
じんけん扱湯ものこれこ椀有湯とうくゆあるゆ
ぎううどこ大くこかの椀ものんあつぎくこれいくこ
ゆあうくこうくくのむべ〜たこひこあうぎんのこた
あくもはあこ飯椀よいこあうゆホのうくゆ香みゆへこ
んけあるべし

一
秋海いでこれゆうの事
きいくうくゆあるべ〜初よいできこ先生ゆとこ汁と作
て清〜こくこいでこ二は春くちくこ二月加くりとこゆこ
くかのこよこここんかくくぎぎ〜いできこんか
ちくいくこ汁こ作くくくいこれくのくまこ
汁ものこよここれゆこくこここ礼紙の作こあゆうあ
のでく〜家言くこ礼いづくくくくこくもくあ〜くこ晴
ぐゆ〜紙ホあくいこふ紙ものこ〜紙の中へりこくものなり
ものくあくもこくむ〜くこはこくこ〜くこくすのこ
常砂清〜先ゆうのす
女式の三々九度よい出椀のてこし挽ゆう出こくぎあくこ
うんあべあくもは写こくうべ〜蔔のくゆんりこんの大椀こ

扨ゆうふかうに扨右の手にて折目の所に右手にて手の孫
ぢをあゆうふ右の手にて後ぐんにかけ揚て右のまうへ
をとり右と下の方へそへおき左の手にて折めゆうり右
にかけ後ぐんにかけ揚
右の方へ右の下の方へそへ右にて扨
て後ぐんにかけ揚ると右にて扨
ゆうと勢くかけめぐりて
一 盃ゆうに盃和のり
あり人と盃をもつの盃の上手へ蒙り扨
一 日夜の盃和のり
右のんにかけ盃のうちのひんにあるゆうよあうの形よりせて
扨くべに右にかけ後ぐんにあんぐう炮蓋あとにとりもあと盃
その中盃上手へあとに盃をのべ

一 盃人の盃をのみおわりて礼式の
先まず一礼に仕のまうあうに若初めて酒と後一こん若
く二こんちかくにかけて人をとりて先盃とさて
のち肴ひぐ先にあちに盃と右の方へ出いてをこん先
盃とちかくあとに扨盃をとりあとにたるのせあ手前
ていてを酒と後一こんのむに肴をもむそれといてそれをく
まて二こんくらへかけ上二こんのくにかけ前のごとく肴
什の盃蓋をくもてをもとりてこむのあくはあをの縁
かりをもつ前よ後初あるこの内外家よりをつぎ家
者をふる盃をといでをくこんよ
但時宜よるべ
酒のをゆうのり

ゑの長の人長は前出門立頂戴ゝとも砂人立流とは
ハ砂人は白ひあ手ゐ結れかゝ吾あとゝ市茶とむとつ
しゝゝゝいゝゝゝ又砂人の方へ白ひ酒とゝ丈ゝ赤ゝ書く
あゐりうつむゝゝ色ゞむゞゞてゝあり人合ゝうゞゞ〜ホふよの
立いゞゞれてもかゝ〜ひゝゝの方と白く吾のゝくあゝゝれ長ゝ
ゝゝのゐハゝゝくんかあゞゞべゝ〜

一 着かゝ〜やうのゐ

酒一ちんゝゝるゝゝれり出ゝとゝあり

一 門ゝゝゝゝやうのゐ

長とゝゐゝゝゝゐうみゝく扱長ゝれ長ゝゝあゞく撥ゝ

上小ゝの人ゝ二ゝ字ゐ撥ゝゐるゝホ小ゝ先ゝのゝるゝホ小ゝゝゝ

むゝれんゝ引掛長ゐゝゝるふゝ拉ひゝゝむゝうゝゞれゝう

ゝ門長ん

一 門頂戴ゝうの半

あゝゝゝ拉ひのゝゝあり赤ゝ半みゝくゝゞゝゝれり

者ゝゝあゞゞゝゐゝゝゝ一ゝれのゝうゝゝふゝるゞゞ〜

一 本長ゝるゝくゝひゝうのゐ

梨子の形ハゝゝゝれ猫切みゝくゝゝるゝのゝくゝ小ゝゝ二ゝゝくゝ

ゞゞ〜青茶瓶ゝゝゝゝゝれゝとゝれ猫切みゝくゝゝとゝれゝるゝまみゝと白ゝゝと白ゝゝま

みゝゝゝ又小ゝゝゝハみゝゝゝゐれゝゝくゝゝゝゝゝ小四ゝ後ゝく中ゝゝれゝ白ゝゝと

ゝゝゞゞ〜大瓶の腰ゝゝ切ゝる中ゞゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 手掛紙ゆうのゆ

三ぢうよりきさ二枚ずゝまとまるとうえ上りの絲こうのゆよりの〜たちよりぢうう蜜柑うう 掛 所 ゆび 柳

六ぶとうえ行よりえ合〜のの〜あぶ 二ぶ六ぶんうよりさむ

ぶこまえ行よりえ切 ぶい〜 剛の大豆 掛ゆ 柳雲 うう白

ゆづうえ 紙よりえ〜絲よのせ ゆ〜べ〜 ぶ手掛と正月えん

一 ぢ〜絲うぢうゆうのゆ

ゆよ紙二枚〜ぶ〜ぶよ上よりゆゆづうえゆとぢうゆ

ゆうゆ〜ぶ〜絲ゆう一ぶ絲上よひ〜のうう白よ行ぶ

柳えぶ〜ぶ〜ぶ〜ぶよ行ぶ 掛ゆ 蒙 ぶ〜ぶ 柳

うえ行よえ合り〜ぶ〜紙よ色ひ〜の絲ゆ絲よ行て

ぶう〜ゆの〜ゆ〜ゆ〜ゆ

結びもう法湯に浸みこ〜上よ桃の花柳りくとけくこ
枝と人のたくあるこもうよ切くべ〜但去の〜七月九月紅
色上よ垂合こべ〜

一 五月五日端午こ〜あり
三ぐうよ紙一重紙〜こ粽蒸よ和蒸よるく〜けこて先
の方と居ふ人のたくあ〜くこの方とたてあふ白のの
りの〜ぐとあ〜ぐ〜ぐこ色垂合けるこ〜お酒のごし

一 七月七日七夕まつふ名借あり
三ぐうよ紙一重紙あ方〜ぐうよ蒸こ糸のご〜こ
中に去ぐこ〜くこ〜こ糸んとこるこ白よい〜こ結こ
合く紙よ色中こぐあ〜ふくこ結くこ色の〜よこ〜くけく
ぐ〜あここ七夕花ひこふあり

一 九月九日重湯こ〜あり
赤飯こ八すのふちこるこ〜く蒸よのせ白こ方よ白
一枝栗こけくありの〜九月色〜けこ合こべ〜け赤飯
こ花〜〜〜古重あり
右五名あり

中元重飯三ぐうふのせ蒸よ判結こ〜こて帰こべ

一 八月初日 頻母名〜こ
八すの縁こるよ夜の花ここくここ去の〜色あ〜て
結〜重合こふちの花八白こ〜こ去こ三寸
あ〜く一枝ぢ〜くこ〜こ〜こ〜こ大こと結こふこのんせ
夜の花〜こ〜あり但白む〜よ

一 十月亥日の亥時こ〜あ〜

三ぢうよ紙一重孫上の俳一重孫下いたくふ上の俳八一す
小くるまと上下とのふすまありひしのもち五色書赤白
黄黒あり古きと紙一重孫よ色中といふ門みく結も
色りよ小俳十五色よ仕立て亟合蔵一枝事廣一本と色て
あり門魚亟合べし云枝の俳ともいつく家子の俳ともいつく
大門みく俳よ蔵紅葉ふ或い古のぶもとそくく色せうあ
て古英多し切畠くく

一御史焼のり

神柳よ炒り豆ハ二ヶ月猪茶ハ菓子五種みくも七種みても
三ぢうよくもあげ方ちよ神酒瓶子一對嫁ごと
ひよぶりそあ地べし扱法と火法よ法と本とこ
ろ山ろ長みすかと七すカすみと八すよ宮ゆうう

ろべくとくいふ法をみ氏本と十二ヶ月ヶ七ヶ月ヶとの
でく稜あぐく茶の方よ弓弁の形とて三亟びあり焼て
あぶ弓弁の本ハ焼べ弓びたハ猪ハ弓威ハ茶ハ弓沼よ亟し
てみべしハ菓子ハ俳ヶ月ヶ地ヶ俳ら居せんべいのろいろ
くあるべし古きを弓沼ハ亟みくきろべしとあり

一年始のり

正月の祝儀物万と用ていとと若ろう十二月十三日とて
始とくのハ十二の教法ふ弓沼よ亟し
ハ亟よ法ろくひあるべし
家紋言の祝ひのり

一家くの吉例あるべし伝畠くく

諸祝當用集巻之中終